

平成27年度学力充実プラン推進事業 江南市実績報告

1 実施した教育活動

基礎的な知識技能を確実に身に付けさせたり、見方・考え方を深めさせたりするための家庭学習の方法を開発し、それを生かす授業モデルを構築することで授業改善を図り、学力の向上を図る。

2 事業概要

(1) ねらい

全国学力・学習状況調査の結果の分析から得た本市の「保護者の学校の取組への参加意識の高さ」といった特徴を生かしながら、学力における課題を克服するための計画を立て、モデル校を中心として実践検証し、その成果を市内各小中学校に広げていく。

(2) 活動内容

① 本市の児童生徒の学力・学習状況に関する課題と特徴

平成26年度の全国学力・学習状況調査の結果の分析から、本市では次のような課題があることが分かった。

- ・ 国語科では、小中学校ともに、漢字の読み書きやことわざの意味といった基礎的な知識技能や「書く」ことに課題がある。
- ・ 小学校6年生の算数科では、引き算とかけ算の混合した計算といった基礎的な知識技能に課題がある。

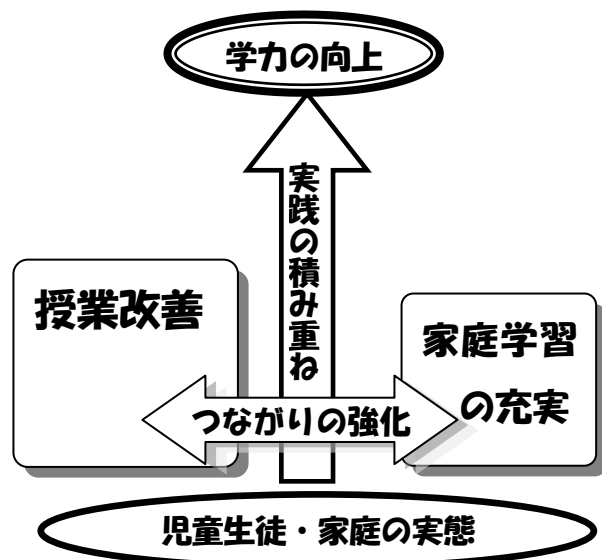
一方で、質問紙調査の分析からは、次のような本市の特徴が浮き彫りとなった。

- ・ 小中学校とも「家の人が、授業参観や運動会などの学校の行事によく来る」とした児童生徒の割合が全国値に比べて高い。
- ・ 小中学校とも「住んでいる地域の行事に参加している」とした児童生徒の割合が全国値に比べて高い。
- ・ 「家で宿題をしている」とした割合は、小学校で全国値と同程度であり、中学校で全国値と比べて高い。
- ・ いずれの特徴においても、「当てはまる」とした児童生徒ほど正答率が高い。

漢字の読み書きや四則計算といった基礎的な知識技能を確実に身に付けさせていくには、反復練習が必要不可欠であるとともに、家庭学習によって補充している部分もある。基礎的な知識技能を確実に身に付けることによって様々なもの見方や考え方を授業の中ですることが容易になり質の高い学びとなる。

しかし、保護者が学校に対して関心があり、児童生徒も「家で宿題をしている」にも関わらず、基礎的な知識技能に課題があるのは、家庭学習が学校での授業や、日々の学びと

本市の学力充実プラン推進事業のイメージ



しっかりと結び付いていないのではないかと考えた。

そこで、保護者の協力を得ながら家庭学習のあり方を見直し、充実させていくとともに、自らの学びが児童生徒自身に実感できるような授業改善を行い、それらを積み重ねていくことによって学力の向上を図ることとした。

② 具体的な取り組み

ア モデル校の設定及び実践・検証

モデル校を江南市立草井小学校に設定し（以下「モデル校」）、本事業に対する実践・検証を行った。モデル校の平成26年度全国学力・学習状況調査の結果の分析も、本市全体の結果の分析とほぼ同様であり、ここでの取組を市内各小中学校がそれぞれの実態に合わせて取り入れていくことで授業改善が図られ、学力の向上につながると考えた。

モデル校の児童は、素直な態度で学校生活を送っており、学習規律も全体的に良好である。この取組を機に、さらに授業の中で全員が活躍し、自信をもって参加できるようにしたいと考える。また、平成26年度全国学力・学習状況調査の質問紙にある「家の人が、授業参観や運動会などの学校の行事によく来る」とした児童の割合は、モデル校でも本市全体と同様に高かった。この特徴を生かして、家庭学習に対してより関心をもってもらい、積極的に関わってもらうことは、児童の学力の向上に有用であると考えた。そこで、児童が自信をもって参加できる「家庭学習を生かす授業モデルの構築」を目指して授業改善を図るとともに、保護者が児童の家庭学習に関心もてるような「家庭学習の方法の開発」を進めることとした。

○ 「家庭学習を生かす授業モデルの構築」について

モデル校では、児童の実態から研究主題を『楽しく学ぶ子・学ぼうとする子』の育成～授業改善と家庭学習の充実を通して～』として授業改善に取り組んだ。ここで言う「楽しく学ぶ」とは、「わかる喜び、できる喜びを実感しながら学ぶ」ことや「もっと知りたい、実践したいという意欲をもちながら学ぶ」ことである。モデル校では、以下のような授業全体の見直しや環境づくりに取り組んだ。

- ・ 「わかる喜び、できる喜びを実感しながら学ぶ」ためには、児童自身に常に目的意識をもたせていく必要がある。そこで、めあて（学習課題）に至るまでの導入部分に、児童の実態や教科の特性を考えながら工夫を加えていった。その方法の一つとして、家庭学習の活用も行った。また、「もっと知りたい、実践したいという意欲をもちながら学ぶ」ためには、児童の欲求に応えられる教材の工夫や準備、「自分の考えを伝えたい」「友達のことを聞きたい」といった欲求に応える「話し合いの場」の設定は必要である。これに加えて、授業の終末に「ふりかえりタイム」を設定し、授業のまとめをしたり、達成度を振り返ったりしながら、次の学習への意欲をもたせた。
- ・ 児童が思考の整理をしやすくなるよう、どの授業においても、めあて（学習課題）の提示など分かりやすい板書を行った。



【「めあて（学習課題）」を掲示した板書】

- ・ 学ぶ楽しさを味わい、それを維持していくことのできる環境づくりを、学校全体の環境を見直した上で行った。例えば、渡り廊下を「国語通り」とし、掲示板を利用して各学年の国語の学習に関連した掲示を行った。この掲示は、学習に合わせて交換をしたり、児童が主体的に取り組めるよう問題形式で作成したりした。掲示が変わるごとに児童が内容を食い入るように読んだり、問題を解いたりしている姿を見ることができた。



【渡り廊下を利用した「国語通り」】



【国語の学習に関連した掲示】

○ 「家庭学習の方法の開発」について

家庭学習のあり方を見直し、充実させていくためには、保護者の協力が必要である。そのためには、保護者に家庭学習の大切さを知ってもらったり、家庭学習について意識を高めてもらう必要があると考えた。5月に保護者に対して行った家庭学習についてのアンケートからも、「家庭でどんな学習させたらよいか分からない」「予習復習のさせ方が分からない」「自分で考えてできるようになってほしい」といった意見があった。そこで、以下のような活動に取り組んだ。

- ・ 家庭が心配されていること、分からないことを把握した上で「家庭学習の手引き」を作成し、配付した。「家庭学習の手引き」には、学年に合わせた学習時間の目安や約束、内容例が記されており、家庭学習を見てもらう上でのきっかけや参考となるものとなった。

高学年の家庭学習

家では、毎日、時間を決めて、勉強するようにしましょう。

5年生は50分以上	6年生は60分以上
-----------	-----------

約束

- ①机の上をきれいにしてから、始めましょう。
- ②よい姿勢で、しましょう。
- ③テレビを消しましょう。
- ④はじめに、先生から出された宿題をきちんとしましょう。
- ⑤自主的な学習にも進んで取り組みましょう。
- ⑥下の例から選んでやってみましょう。

内容の例

【モデル校「家庭学習の手引きより」】

- ・ 学校で家庭学習がどのように生かされているのかを、家庭に知ってもらうことが大切と考え、授業参観を利用して、前日の宿題を生かした授業を参観してもらう試みを行った。保護者には、家庭学習の視点でも授業を参観してもらえるように、事前に通信を配付した。当日は、大変多くの保護者の方が参観をし、児童の活動の様子と家庭学習の内容が授業で生かされていく様子を観てもらうことができた。

研究だより

平成27年度 第4号 (1)

○ 6月6日(土)の授業参観に向けてのお願い

すでにお伝えしておりますが、今年度、授業と家庭学習とのつながりを強化し、学力向上を図っていくと取り組み始めています。そこで、授業参観日にはその点についても見ていただきたいと思い、お子さんへの前日の宿題は公開授業と関連した内容を出します。授業者の方にもご協力いただく内容もあるかとありますが、ご協力をよろしくお願いたします。

家庭学習の課題と活用

1年
採後する取組などの名前や位置を校内地図に書き込みながら復習します。授業ではそれを基かして迷うことなく家の人を案内しながら採後します。

2年
漢字練習をします。それを授業の導入で取り上げます。

3年



【研究だよりと授業参観の様子】

イ モデル校による取組を市内各小中学校につなげる取組と研究の成果の共有

モデル校による取組を市内各小中学校につなげていくには、実際の授業を多くの教師が参観し、各小中学校の実態に合わせて考えをもつことが大切であると考え、「モデル校における授業研究会」を実施することとした。その際には、講師を招聘し、指導・助言を受けることとした。また、研究の成果を共有していくために、モデル校の研究主任や市内各小中学校の教務主任を中心とした「江南市学力充実研究委員会」を組織し、取組を市内各小中学校へ円滑に広げていくこととした。

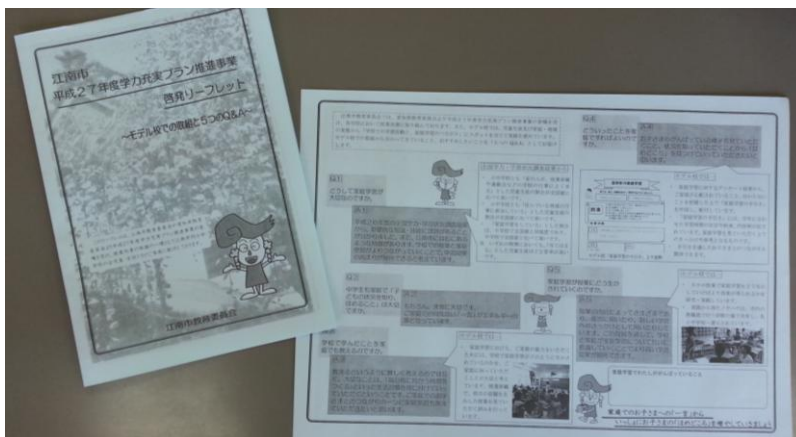
○ 「モデル校における授業研究会」について

モデル校における授業研究会は、11月27日（金）と2月1日（月）に実施した。いずれの授業研究会にも講師として、奈良学園大学人間教育学部教授の伊崎一夫先生を講師として招聘し、研究授業参観と研究授業協議会での指導をしていただいた。

授業研究会には、市内各小中学校の教師も参加し、モデル校での取組に対して多くの意見や感想を聞くことができた。また、講師からは、研究授業での児童の発問や動き、表情と、教師の発問、支援などを具体的に取り上げた指導・助言をいただくことができた。

○ 「江南市学力充実研究委員会」の活動について

委員会は、6月26日（金）、9月11日（金）、12月4日（金）、1月15日（金）の4回開催し、モデル校での実践・検証の報告や意見交換を行った。モデル校での取組を市内各小中学校での取組に反映させていくには、保護者への周知も有効であると考えた。そこで、学力充実に向けた実践と成果を発信するためのリーフレットを作成し、保護者や市内各小中学校の教職員などに配付した。リーフレットでは、家庭での基本的な生活習慣や家庭学習が、学校での授業でどのように生かされ、どういった成果が期待できるのかを、モデル校での実践と合わせて紹介する内容とした。



【リーフレット】

4 事業成果

(1) モデル校での実践・検証より

① 「家庭学習を生かす授業モデルの構築」を通して

モデル校では、児童が学びたくなったり、家庭学習を生かしたりできる課題提示や導入の方法の工夫や、授業の終末に「ふりかえりタイム」を設け、課題に対するまとめを行うといった工夫を通して、授業改善を図ることができた。モデル校では、構築した授業モデルを「草井小スタンダード」とし、授業を積み重ねていくことができた。

9月に行った国語科と算数科の検証テストの結果をみると、本事業での授業改善を始めて3か月あまりの段階だが、特に高学年において、基礎学力の向上が見られ成果が現れている。

② 「家庭学習の方法の開発」を通して

モデル校での家庭学習に対する教師の日々のていねいな指導に加えて、保護者アンケートに基づいた「家庭学習の手引き」や「研究だより」を保護者へ配付していくことにより、家庭での児童の学習時間が増加した。また、家庭学習における児童の変化について、肯定的な意見が多くなったり、寄せられたコメント数自体が増加したりと、家庭学習に対する保護者の意識が向上した。

さらに、自主学習に積極的に取り組む児童も増えてきた。例えば、ウズラの卵を温め、羽化させ育てる活動を行い、それを「家庭学習の手引き」に従ってノートにまとめた児童など、質の向上も見られるようになってきている。

これら児童や保護者の意識の向上は、基礎的な知識技能の定着に寄与しているものと考えられる。

(2) モデル校による取組を市内各小中学校につなげる取組と研究の成果の共有より

① 「モデル校における授業研究会」を通して

講師の具体的な指導や実践的な助言は、モデル校の授業改善に効果的であった。また、モデル校における授業研究会に参加した市内小中学校の教師からは「めあて（学習課題）の大切さを知った。自分の授業に生かしていきたい」「振り返りの大切さは分かっていたが、方法に苦勞していた。何を児童にさせたらよいかははっきりした」「今日研修したことを教職員に配付する通信を通して伝えていきたい」といった感想が聞かれ、内容は市内各小中学校にも還流され、授業改善につながっていると考えている。

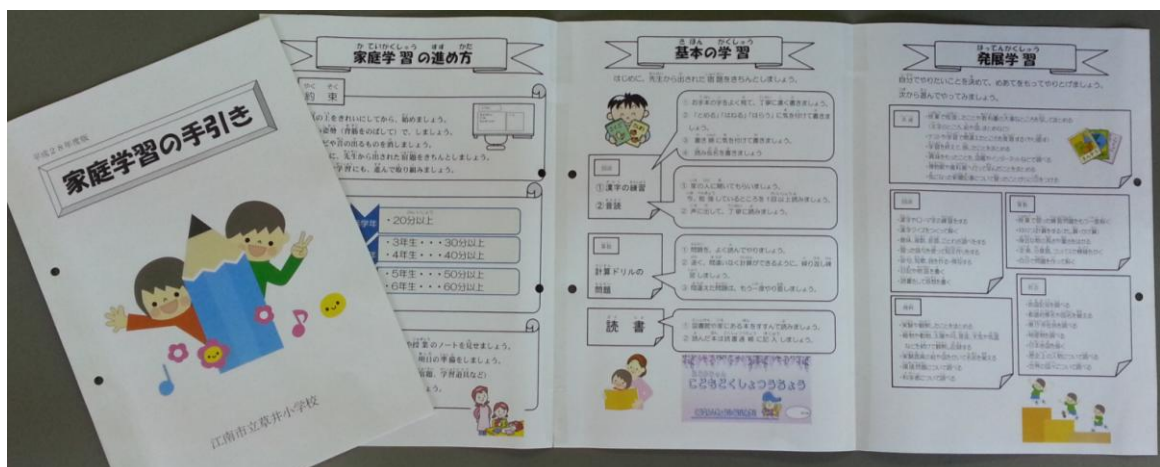
② 「江南市学力充実研究委員会」の活動を通して

委員会では、モデル校での実践の具体的な内容や検証のための評価テストの紹介、「家庭学習の手引き」の提供などが行われた。また、リーフレット作成に関わる意見交換なども行われ、モデル校での研究の成果を共有していくことができた。委員会で提供された「家庭学習の手引き」「評価テスト」を利用して、児童生徒の実態に合わせて使用する学校もあり、モデル校の実践の成果を市内各小中学校での取組に反映されていくことができた。

5 今後の事業計画

多くの成果を得ることができた本事業について、モデル校では、構築した「家庭学習を生かす授業モデル」に対して、課題を明らかにした上で改善を加え、授業に生かしていくことによって学力の向上を図るよう努めていきたい。また、「家庭学習の手引き」についても改善を加えており、家庭学習に対する児童や保護者の意識をより向上していきたいと考えている。

モデル校による取組を市内各小中学校につなげるために、今後も市内各小中学校の教務主任会を中心として、研究の成果の共有や情報交換をしていきたい。



【平成28年度版「家庭学習の手引き」】